

PTA

やまがた

第30号

平成18年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 逸見良昭

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533



県P連活動スローガン

**「変革の時代、共に学び、共に築き
共に行動するPTAの創造」**

— 子どもたちの永久の笑顔を目指して —



東北ブロック研究大会 北村山大会を開催

平成17年9月10日(土)～11日(日)

子どもたちの永久の笑顔のために



山形県PTA連合会会長
逸見良昭

山形県PTA連合会の運営に對しまして深いご理解とご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

本年度「共に学び、共に築き、共に行動するPTAの創造」く子どもたちの永久の笑顔を目指してのスローガンのもと、様々な課題・問題に取り組んでまいりました。そして各郡市PTA・各単位PTAにおかれましても、子どもたちのために活動していただいたことに感謝申し上げます。

ました。山形県PTA連合会として三年前からPTAとしての意識改革を唱え続け、楽しいPTAから学ぶPTA、そして行動するPTAを目指してまいりました。今こそ私たちがPTAは、子どもたちの視点に立ち、今抱えている問題・課題を真摯に受け止め、知恵を出し合い、情熱を持ち活動していかねばならない時期に来ております。

松尾芭蕉が「奥の細道」の間に体得した概念の中に、『不易流行』という言葉があります。この言葉を教育に置き換えれば『不易』は信頼関係であり、『流行』は様々な教育改革であると思います。教育（家庭・学校・地域）における信頼関係は、いつの時代であつても不偏であり、教育改革は時代・社会の進展により変化していきます。「教育の原点が家庭」であると同時に、「家庭の信頼関係」こそが教育の根幹であると思います。今の時代だからこそ、再認識しなければならぬのではないのでしょうか。

さて、本年の活動を振り返りますと、数多くの研修会に参加、開催す

ることが出来ました。

九月には本県において（社）日本PTA全国協議会第三十七回東北ブロック研究大会北村山大会が「かかわりの中で育てよう、たくましく生き抜く子どもたちを」く夢と未来を語り合おう、東北のどまんなかでく

の大会主題のもと開催されました。東北各地より二千余名の会員の方々のご参加を得、無事成功裏に終了することが出来ました。そして、参加いただいた方々から、大会に対するお褒めのお言葉を多数いただきました。これも偏に数年前より準備を進めていただいた実行委員会の方々をはじめ関係諸団体のおかげであり、深く感謝申し上げます。本大会は、三市一町での広域開催であつたにもかかわらず、各分科会では実行委員会の方々との連携により地域の特色を十分に生かし、それぞれのテーマのもと活発な討議がなされました。また、全体会ではダニエル・カール氏を迎え「オラの愛する元気な東北」と題した記念講演が行われました。会場内は笑いの中にも、親として地域人として自信と誇りを持ち、地域における「かかわり」の重要性を実感させるものでした。本大会を通して、北村山の地からPTAとしての子どもたち・学校・地域との「かかわり」

大会主題

「かかわりの中を育む、の、たくましく生き抜く子どもたちを、夢と未来を語り合おう、東北のどまんなかで」

東北地方のどまんなか、山形県北村山地区三市一町において東北ブロック研究大会が開催されました。東北各地より二千二百名の会員及び関係者が参加され、日頃の研修や実践の成果と課題を持ち寄り、広い視野から熱心な研究協議と情報交換が行われました。逸見良昭大会会長は「本大会では『三世代の協力による子育て』等を中心に、様々な人との関わりを通して、PTA活動のあり方、家庭教育のあり方等を再確認し、これまでのPTA活動を検証し、今後の活動に生かしていただきたい」「未来を担う子どもたちが、笑顔で過ごしていけるよう、親・家庭の教育力を高める研修の場となることを期待する」と挨拶しました。また、赤田英博日本PTA全国協議会会長は「最近、社会を震撼させている子どもの

虐待や、子ども自身による殺傷事件、凶悪な犯罪の低年齢化などの問題も看過できない喫緊の課題、子どもの健全育成は、PTAの命題であり、保護者の責任はきわめて大きい。関係の深い学校や地域との連携を密にして、子どもの事件・事故の防止に努めることが肝要です」と挨拶しました。たしかに、人間関係の希薄化からさまざまなことにかかわりが持たなくて大きな社会問題となり、子どもに悪影響を与えたり、また、最近連続して発生している子どもへの殺害事件など社会に大きな衝撃や悲しみをもたらす問題が多発する傾向にあることはきわめて遺憾であります。子どもたちの永久の笑顔を目指して、心身共に豊かに成長できるように環境を作っていくことが大人の責任です。

分科会研究内容

1. 組織・運営（パネルディスカッション）
 - (1) 新しい時代に対応する組織・運営
 - (2) 会員の意識向上を図るための方策とPTA活動
2. 研修活動（パネルディスカッション）
 - (1) 会員一人一人の資質向上を図る研修
 - (2) PTAの実践活動に結びつく研修
3. 健全育成（パネルディスカッション）
 - (1) 体験を通して子どもを育てるPTA活動
 - (2) 子どもと保護者が積極的に参加できる地域活動
4. 家庭と小学校教育（パネルディスカッション）
 - (1) 「生きる力」を育てるための家庭・学校の役割
 - (2) 完全学校週5日制の良さを生かすPTA活動
5. 家庭と中学校教育（パネルディスカッション）
 - (1) 中学校教育での「生き方指導」のあり方
 - (2) 望ましい進路指導を促進するための家庭・学校の連携のあり方
6. 健康・安全教育（パネルディスカッション）
 - (1) 心身ともに健康な子どもを育てる生活環境づくり
 - (2) 子どもたちの安全を守るPTA活動
7. 特別課題「世代をこえて語ろう 子育てについて」
 - (1) 地域における異世代間交流
 - (2) 家庭における世代間のかかわり

記念講演



講師
ダニエルカール氏

◆プロフィール
1960. 3. 30生
モンロビア市・カリフォルニア州出身
パシフィック大学卒業
専攻：国際研究
語学：英語、ドイツ語、山形弁
専門分野：地理、世界史、言語、仏教、文化
得意分野：旅、子どもの教育、環境問題
現在：ドラマ、司会、コメンテーターなど、何でもこなすマルチタレント。山形弁研究者。

オラの愛する元気な東北

の輪が、東北・全国へと広がっていくことを願ってやみません。十一月には、県教育委員会と高等学校PTA連合会との合同教育懇談会が開催されました。「小・中・高連携のもと、いのちの教育」をつくる「く学校・地域の連携と家庭の役割」をテーマに、話し合われました。私たちに託して「いのちの大切さ、尊さ」はかけがえのない命題であり、子どもたちに伝えることは義務でもあります。近年、家庭における基本的な生活習慣の乱れが指摘されています。PTAとしてまた親として、家庭生活における様々な体験の中で、それらの重要性を伝えていかなければならないことを再認識し、同時に相互の連携の必要性を感じ、地域の子どもは地域ぐるみで育てる意義と大切さを痛感いたしました。山形県PTA連合会は、これからも様々な活動を通して、社会環境・教育環境の変化をいち早く認識し、子どもたちの永久の笑顔のために活動してまいりたいと思います。終わりに、本会運営に對しましてご理解とご支援を頂いております県教育委員会をはじめとする関係各位に感謝申し上げます。今後もお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

県PTA連合会 母親委員会の本年度の活動



県PTA母親委員長
佐藤 静子

東 北PTA母親委員会
の活動テーマに沿っ
て、引き続き、「命の尊さ大
切さ」というテーマのもと
活動を進めております。命
を大切にするための動機
座である心に着目し、「自
尊感情（自分を大切に思え
る気持ち）」について研修・情
報交換をしました。子ども
の自尊感情を高める、親の
かわり方を学びました。
また、当委員会設立から
十三年が過ぎようとしてい
る現在、委員会のあり方や
組織の再構築等について検
討しています。今年度は、
組織状況調査を行い、現時
点での母親委員会の設置状
況を把握しました。山形県
PTA連合会の意見や東北
PTA母親委員会との関係
も考慮に入れ、いっそう有
意義な活動のできる委員会

「いのちの教育」を考える



山形県中学校長会長
後藤 恒裕

第 五次山形県教育振興
計画がスタートした。
いわゆる「いのちの教育」
である。これは、一万年に
及ぶ縄文の歴史を持つ東北
地方、とりわけ山形県にふ
さわしいテーマである。
百三十年前、イギリス人
のイザベラ・バード女史は
日光から北海道まで東北縦
断旅行を敢行した。途中、
山形県内を旅行中に大自然
と人々の生活が織りなす風
景のあまりの美しさに「東
洋のアルカディア」と賞し
たことはあまりにも有名で
ある。
縄文の香り漂う中で我々
の先人たちが個性あふれる
精神風土を築き上げ、それ
を受け継いできたわけであ
る。この長い年月をかけて
築き上げてきた大切なもの
をしつかりと継承し、発展

させ、後世に受け継いでいくこと
こそ「五教振」の心ではないかと思
う。最近、信じられない事件や事故が
起る。人間の身勝手さや自己中心
的な要素が原因になっている場合が
あまりにも多い。人の間に生きる人
間はお互いに支え合って生きる存在
であることは間違いない。だとすれ
ば、縄文の昔からこれまで先人が育
んできた日本独自の伝統的精神文化
である「人様」「世間様」「お天道
様」という考え方や「お陰様で」と
か「有り難い」という言葉の本来の
意味をもう一度見直し、伝えていく
必要を感じるのは私だけであろうか。
まずは、マスコミを通して流れる
大人の身勝手さや無責任な言動を
我々大人全体の責任であることを自
省することから始めなければならな
いのではないだろうか。自覚する大
人として先頭を歩むべき教職員はも
ちろん、親も地域の方々も、あらゆ
る立場を超えて、「大人が変われば
子どもも変わる」の標語をもう一度
共通課題として認識する必要がある
ように思える。
少なくとも責任と義務を果たし、
ルールを守って普通に生活すること
ぐらいはしなければならぬ。

を指し、検討を重ねていきたいと
思います。
今年度、県母親委員会活動にご理
解とご支援をいただいたことに、心
より感謝申し上げます。今後とも、
山形県全体の子どもたちを見守り育
てていくために、各都市の子どもの
様子等を情報交換し、ネットワー
クを密にして活動していきたいと思
いますのでより一層のご支援をお願
いいたします。

《活動報告》

第一回母親委員会 六月十三日
。正副委員長選出
。活動計画及び情報交換

第二回母親委員会 九月二十一日
。母親委員会組織等の検討
。情報交換「自尊感情について」

第三回母親委員会 十一月十六日
。東北PTA研修大会報告
。「県母親委員会だより」作成案
。母親委員会組織等の検討
。情報交換「性教育・子どもの様
子」

第四回母親委員会 平成十八年二月七日
。「県母親委員会だより」作成
。今年度反省と来年度に向けて

《郡・市PTA母親委員会組織状況》

郡・市	単位PTA組織数	郡・市母委名	設立状況と組織構成	刊行物	活動内容	その他
山形市	単P52/母委49 (94%)	山形市PTA連合会母親委員会	平成8年1月(規約あり)・委員長1名、副委員長2名(小・中)・各校単Pの母親委員会から代表1名が選出され委員となる	「マザーズ ネットワーク」	活動テーマ・定例委員会3回(研修、情報交換等) 拡大母親委員会1回(単P母親委員、保護者対象研修会)	正副委員長は互選 小委員会設置(運営委員会)
上市市	単P13/母委3 (23%)	上市市PTA連合協議会母親委員会	平成5年(規約なし)・委員長1名、副委員長1名 各校単位PTAより1~6名の母親委員で構成	なし	年4~5回の会合 講演会	正副委員長は輪番制 単P母親委員会活動なし
天童市	単P25/母委16 (64%)	天童・東村山地区PTA連合会母親委員会	規約なし・委員長1名、副委員長1名	母親委員会だより	年2回の母親委員会開催 「母のつどい」講演会開催	委員長は輪番制
西村山	単P41/母委38 (93%)	西村山PTA母親委員会	平成6年6月(規約あり)・委員長1名、副委員長1名 各校1名の母親委員で構成・代表委員会は各地区より2名選出	おたより発行	委員会年3回開催(協議、学習会) 代表委員会随時開催(企画運営)	正副委員長は互選 正副委員長は代表委員兼
北村山	単P50/母委19 (38%)	北村山PTA母親委員会	平成10年2月(規約あり)・委員長1名、副委員長1名 各市町PTA連合会から1名の母親委員で構成	なし	なし	正副委員長は互選
最上	単P62/母委62 (100%)	最上地区PTA母親委員会	平成9年4月(規約あり)・委員長1名、副委員長1名 単位PTA選出の母親委員で構成・代表委員会と母親委員会 全体あり	「かあちゃん ほっらいん」	定例委員会3回 母親委員会全員研修会1回	
米沢市	単P27/母委27 (100%)	米沢市PTA母親委員会	平成6年11月(規約あり)・委員長1名、副委員長2名(小・中)、 幹事6名(小4名、中2名)・各校1名の母親委員で構成	活動内容集(各校)	年3~4回の母親委員会開催	委員会に養護学校1校含む
東置賜	単P37/母委3 (8%)	なし	なし	なし	なし	
西置賜	単P31/母委23 (74%)	西置賜地区PTA母親委員会	平成13年7月設立・委員長1名、副委員長1名 西置賜地区の各市町PTA連絡協議会より母親2名を持って 構成	なし	年3回の委員会開催	副委員長1名は次年度校より 選出
鶴岡市	単P27/母委2 (7%)	鶴岡市PTA連合会母親委員会	設立年不明(規約なし)・委員長1名、副委員長1名 各校単Pの母親委員会から代表1名が選出され委員となる	なし	年3回の委員会開催・情報交換 親子映画上映会	
東田川	単P15/母委1 (6%)	東田川郡PTA連合会母親委員会	当番校の女性副会長が母親委員	なし	年1回の会合(母親委員会のつどい)	
西田川	単P6/母委6 (100%)	西田川郡PTA母親委員会	正副委員長の任期は1年 各単Pより、1名以上の推薦。今年度は、20名で構成	「かあちゃんのかわら版」	親子で読み聞かせ・映写会 情報交換・広報誌の発行	
酒田市	単P29/母委25 (96%)	酒田市PTA連合会母親委員会	平成8年1月設立(規約あり)・委員長1名、副委員長3名 各校単Pより選出された母親委員1名をもって構成	委員会だより	定例委員会2回(研修、情報交換) 酒田市PTA研修大会での講演会や分科会運営	副委員長1名を次年度当番 校より選出、その他2名は 互選
飽海郡	単P2/母委5 (25%)	なし	設立なし・郡母親委員は当番幹事持ち回り 各町母親委員総数39名	なし	郡PTA研修大会協力	

三世代の協力による子育てを！

～東北ブロック研究大会 北村山大会～



北村山大会実行委員長
大類 誠一

どかに広がる田園地
帯、北村山で開催さ
れた第三十七回東北ブロ
ック研究大会北村山大会に、
多くの皆様のご参加をいた
だき、心から感謝申し上げ
ます。
「かわりの中で育てよ
う、たくましく生き抜く子
どもたちを」と夢と未来を
語り合おう、東北のどま
なかでこの大会主題のもと
開催された本大会は、「三
世代の協力による子育て」
等を中心に、三市一町を会
場として七つの分科会に分
かれてパネルディスカッ
ション形式で行われました。
実行委員会を立ち上げ、
北村山PTA連合会五十校
が三力年に渡って進めて来
た大会ですが、大きな会場
がない問題や、不慣れた交
アクセス等、皆様には大変
ご迷惑をおかけしました。

山形県北村山地区は、三世代同居
しかも共稼ぎの両親が多く、それぞ
れの世代が協力し合って生活して
おります。おそらく東北地区全体がこ
のような傾向にあるのではないで
しょうか。たくましく生き抜く知恵
や、文化・伝統芸能の継承など、世
代間のかかわりが、子どもたちの健
全育成に大きく影響していることは、
言うまでもありません。そして、私
たちPTAは、今後ますます自分が
関係する子どもたちだけではなく
「地域全体の子どもにとって真の幸
せとは何か」という大きな枠組み
で考えなければならぬでしょう。
今の子どもたちの多くは、目の前
のハードル(障害)に対して、積極
的に挑戦しようとしません。やる前
からあきらめているのです。しかし、
ハードルから逃げている間は、成長
なんてありえません。私たちPTA
や地域の方は、そのハードルを越す
ための「踏み台」になろうではあり
ませんか！
終わりに、本大会における研究協
議と情報交換が、各単位PTA活動
の活性化につながり、また明日を担
う子どもたちを育むPTA活動の指
針として活かしていただければ幸
いです。みなさん、子どもたちと思
いっきりかわり、一緒に頑張りま
しょう。



県民運動『大人が変われば子どもも変わる』



～地域ぐるみ子ども育成活動への取り組み その6～

地域ぐるみ協働、協働で育成

山形市立東沢小学校PTA

本校は、山形市の東に位置し、馬見ヶ崎川と雁戸山を望み、夏にはホタルが飛び交う豊かな自然に恵まれた所にある児童数二百十名、PTA会員数百八十五名の学校です。地域、学校、家庭、が三位一体となり子ども達を育てて行こうと、連携を図り、様々な取り組みを行っています。その中から紹介させて頂きま

一、安全への取り組み

子どもを対象にした事件が絶えない昨今、「地域の子どもは地域で守ろう」の合言葉のもとPTAを中心に、民生児童委員、各種団体が協力し、安全パトロール隊を結成し、登下校時に合わせ、地区内を生活安全広報車で見回っていると共に、防犯ポスターを製作して、地区内に掲示し、不審者を地区内に入れないよう予防に努めています。

それと合わせ、三カ月一度、警察、防犯協会の方々等多数の協力を得、様々な情報

交換会を実施しています。

二、行事、環境整備の実践

冒頭で記載しましたが、当校グラウンド脇を馬見ヶ崎川が流れております。数年前より子ども達の遊び場と、学習の場として活用させようと、地域の方々が中心となり、県のアダプト事業を活用し、ガンドパークの名称のもと地域、学校、家庭、育成会等、各種諸団体が連携協力し、様々な行事や環境を整備しています。

夏には川に生け簀を子ども達と共に作り、そこにマスを放流し、捕まえて食べる、マス掴み大会。冬には、「冬のホタル灯」と称し雪像や、雪を掘りその中でローソクを灯してのイベントを開催しています。又、地区のボランティアの方々と月に一度ガンドパークの整備作業や、芋煮会シーズン後の河川清掃等を子ども達と共に実施し自然の大切さ、尊さを体感しながら、様々な事を学んでいるところです。

以上のように、地域、学校、家庭が三位一体で協力連携し、「大きく輝け雁戸の子」の育成を目指し、取り組んでいるところです。

よたよたのサミット

米沢市立第四中学校教育振興会

一、はじめに
本校は、米沢市の北部に位置し、生徒数四百七十名、今年で創立四十五周年を迎える伝統校です。本校PTAでは、第五次山形県教育振興計画で大きな柱として位置づけられた「いのちの教育」の具体的な実践活動の展開を今年度の活動の中心に据えることとし、研修部主体の実行委員会を組織して「よねよんのちのサミット」を昨年の九月三十日に開催しました。

二、いのちのサミット

サミットでは、まず、自然界で生きる動物や人間の生と死を描いた映画「風といのちの詩」を全校生徒と保護者が鑑賞し、その後生徒・保護者の代表によるパネルディスカッションを行いました。また、PTAと地域との連携を深めるために、サミット終了後に、保護者、地域の教育関係者、医療関係者、青少年育成関係諸団体を対象に講演会と交流会を行いました。

なお、サミットが単発のイベントだけで終わることなく、今後の実践活動のベースとなるよう、「いのち」に関する生徒へのアンケート調査や、生徒と保護者によるレポート作成などを行い、実践記録集としてとりまとめました。

三、いのちのサミットの成果

「いのち」という非常に難しいテーマで、全く初めての試みであったため、開催にこぎ着けるまでには様々な苦労がありました。関係者の皆様のご尽力ご支援により、成功裏に終了することができました。生徒達の反響も大きく、いのちや自然の大切さや考える良い機会になったと思えます。また、一連の行事を通じてPTAと学校・地域社会との交流が深まったことも大きな成果だと考えています。

四、おわりに

「いのちの教育」を真に実現するものとするためには、保護者自らが、具体的な実践活動の推進役となること、何よりも大切であるということ、今回のサミット開催で学ぶことができました。

多様な関わり

酒田市立八幡小学校PTA

本校は、庄内地方の東北部鳥海山の麓に位置し、豊かな自然に囲まれながら百九十四名の児童が学んでいる。八幡地区には四つの小学校と一つの中学校があり、学区は十七の地区からなり、PTAでは十五地区にまとめ、生活指導、保健体育の地区役員を選出し、地区との関わりを大切にしている。小規模校であるが、各学年の役員と合わせ総数七十一名を選出し活発に活動を展開している。

【地域・他校Pとの関わり】

地区の公民館は、学年や専門委員会の年間計画段階で参画し、連携して健全育成を図る方策を話し合っている。

例年取り組んでいるものに、学校・PTAとの三者共催の「花いっぱい運動」がある。県道沿いの歩道で、子ども達は地域の大人から植栽の技術を学びながら作業し、晩秋まで世話活動に取り組んでいる。スキーは各校の特徴ある活

最後まであきらめずに心を一つにして頑張る姿、子どもたちの涙、そして役員さんの涙、一杯感動のストーリーを創ろうと頑張った子どもたち、最後の感動的な運動会を創り上げた役員のみなさん、そこには感動的な運動会を創り上げたみんなの熱い思いがあったのだと思います。

子どもたちに感動というすばらしさを教える地域のみなさんの熱い気持ち、一つの大きなことをやり遂げたときの涙は、子どもたちの心を育み、大きく成長させました。

三、百三十一年の歴史に感謝

百三十一年の歴史に感謝しながら、学校、家庭、地域が一体となって、子どもたちとともに感動のストーリー、思い出をつくってきました。

閉校までの残された日々を大切に、さらなる感動のストーリーを心に刻み、有終の美を飾ることができるよう全力で取り組んでいきたいと思

います。ありがとうございます。角沢小学校……。

【連携の結晶 アルミ缶回収活動】

児童が主体となっているボランティア活動に、アルミ缶を回収して収益金を車椅子に換え地域福祉施設に贈る活動がある。学校では児童が活動の仕方や回収日を話し合い、分別作業を行う。地区生活指導委員は各地区での世話活動に取り組み、PTA役員会では児童の様子や活動の支援のあり方について話し合っている。

年一回の学年P搬出の日、分別や袋詰め、運搬車への積み込み作業など親子でボランティアである。子どものいない家も多く、どの家も子どもの訪問を心待ちにしてくれている。温かい交流が生まれている。関わるみんなに地域づくりの実感をもたらす、地域の誇りとなっている。

「強く、やさしく、はげしく」

新庄市立北辰小学校PTA会長 三原 忠一

私達の北辰小学校は、市の郊外に位置し、田園地帯に泉田川と指首野川が流れ、県の天然記念物イバラトミヨが生息する自然豊かな地区です。現在PTA会員百十三名、児童数百五十三名となっています。

この度このような素晴らしい表彰を受賞できましたことは、これまで本校PTAにかかわった皆さんの地域・学校・保護者の皆様そして先生方のおかげと心より感謝申し上げます。

一、活動テーマ

「強く」は父親へ、「やさしく」は母親へそして「はげしく」は子どもたちへの願いを込めて、今年度のテーマとしました。

二、環境教育にかかわる活動

(一) イバラトミヨの保護活動への支援

県の天然記念物に指定されているイバラトミヨが学区に生息しています。四年生の総合の時間に教材化し、その生態調査や環境調査などに取り組んでいます。学習が保護活動まで展開し、保護者や地域の協力を得る必要があります。PTAも保護活動に取り組んでいます。中川原・野中地区の川の清掃活動など子どもの活動をサポートしてきました。

(二) 親子奉仕作業

循環型社会を目指して、校区にあるバイオマスセンターの支援を受けて、落ち葉の堆肥づくりに取り組んでいます。十月の下旬に、親子で落ち葉

を集めて、堆肥の寝床に敷き詰作業を行っています。できた堆肥は、実習田と栽培園の土づくりに使っています。今年も無農薬の北辰米と大きなサツマイモや大根などの野菜を収穫しました。

(三) 家庭における省エネ

学校でやっている省エネへの取り組みを保護者も一緒にできることはないかと考え取り組んだ一つが、キャンドルナイトへの参加です。夏至の夜に、ろうそくだけで過ごすことは、大きな省エネにはなりません。ろうそくの灯りの下親子で語り合いや食事などをして普段できないひとときを過ごし、忘れぬ時間になりました。また、日々の生活の中で省エネを実施する家庭が増え環境を守ることへの意識が高まっています。

三、小中連携の取り組み

明倫中学校を中心に、沼田小学校と本校の三校で、PTA連絡協議会を組織して子どもの健全育成と親の研修の充実に取り組んでいます。

(一) 明倫中学校区PTAフォーラムの開催

今年度は十一回目の開催で本校が当番校として企画運営を行いました。

・講師 秋葉建司氏

(県家庭教育専門員)

・演題

「子どもは親の思い通りに育てない」

・二百名を超える参加で、保護者の関心の高さを感じました。

(二) 地域合同あいさつ運動

毎月一日・十五日に、PTA役員・児童環境部を中心に各地区毎にあいさつ運動を実施しています。

四、専門部の活動から

研修部が主催した「けやきの森映写会」は大変好評でした。夏の夜を親子で映画を見てすてきな夜を過ごしました。

五、まとめ

学校の支援を通しながら、親自身が環境の大切さを感じて子どもとともに実践を始めています。「強く、やさしく、たくましく」のテーマの実現に向けて、今後も活動を続けていきたいと思っております。



一、はじめに

〈概況〉

私たちの山形市立第八中学校は、山形市西部、富神山の麓に広がる田園地帯にある自然環境に恵まれた学校です。創立三十四年目を迎える、全校生徒二百七名の小規模校です。

この度、このように素晴らしい表彰を受賞できましたことは、これまでの歴代会長をはじめ、本校PTA活動を支えてくださいました地域・学校・保護者・学区内四小学校PTAの皆様の御陰と心より感謝申し上げます。

本PTAは、地域・保護者が一体となり、「地域と学校の協働で開く」を活動のテーマに掲げ、様々な教育活動・PTA活動を展開しています。(PTAの組織と主な活動)

① 生活部
交通安全・あいさつ運動立

哨、夏祭り巡視、子育て講演会、通学路点検



② 広報部

PTA会報「ひめさゆり」の発行(年三回)

③ 母親委員会

主任児童委員との話し合い、生け花教室、食と命、「スカイブルー8」の発行(年四回)・地域の食文化を通して子どもたちを育てることを目的にした郷土料理レシピの発行

・「我が家の料理自慢」レシピの発行

④ 各学年委員会

・学級懇談会、ソフトボール大会、いも煮会、親子イキイキ研修会、行事等協力

二、特色ある取り組み

① 子育て研修

新入生オリエンテーションの際に、本校スクールアドバイザー山川勇一氏(元県中学校長会長)を招き、「中学校への入学にあたって」のテーマで保護者のあり方について示唆に富んだご講話をいただいている。

② 親子研修

生活部主催で、青少年指導専門員の森岡美貴子氏による「自分の命は自分で守る」携帯電話・パソコンの落とし穴」の講演をいただいた。学区内四小学校PTAが連携する「西山地区活性化事業」では生け花教室を開催している。

三、子どもたちの健やかな成長を願う学社融合の取り組みについて

① 「先輩リレーメッセージ」

先輩の生き方に学ぶリレーメッセージを年八回、全校朝会時に開催している。後輩への熱い思いや地域への愛情から学び取る貴重な機会と位置づけ、進路指導に資するようにしている。年度の最後のメッセージはPTA会長からである。

② 起業家教育活動

「地域に開く八中教育」の学校教育目標に基づき、学校の学びを地域で生かし、地域での体験から学び取る活動の一環として「起業家教育」を実践している。山形市中心部の殖産銀行本店前での販売活動では、PTAも全面支援するとともに、独自の販売活動も企画している。また、各地区で秋に開催される文化祭での販売活動は、地域の人たちにも大変好評である。

③ 健全育成サポート会議

PTAをはじめ、地域の各団体の代表が集まり、学校・地域の取り組みについて意見



四、成果と今後の方向性

本校PTAは、「地域で豊かに生きる八中教育」「地域と学校の協働で開く教育活動」のために、地域・保護者・学校間の連携の要として、主体的かつ献身的に活動を展開している。地域・学校の取り組みと生徒の活躍の場の設定に意を用いるだけでなく、自ら学び輝くPTA活動を目指した取り組みはイキイキとした子どもたちの姿に大きく貢献している。これからも子どもたちの「夢・挑戦・未来」のために、活動の充実を図っていきたく考えている。

「自ら学び輝くPTA活動」を通して

優良PTA文部科学大臣表彰

山形市立第八中学校PTA会長 木川 正美

平成十七年十一月二十二日に、東京ホテルニューオータニで、日本PTA全国協議会の表彰式が開催され、東根市立東根小学校は、日本PTA全国協議会会長表彰を受賞しました。

今回のこの栄えある受賞は、本校が明治七年学校創立そして昭和二十二年のPTA創設以来の栄誉であると思えます。これもひとえに、PTA活動及び学校教育に尽力してこられた、歴代の校長先生・先生方・PTA会長・役員と会員の皆様、更に地域の皆様の努力と協力の賜であると思えます。深く感謝申し上げます。

ここで本校の紹介とPTA活動の紹介をさせていただきます。受賞のお礼とさせていただきます。たいと思えます。

本校は、小田島長義が築城した東根城址内にあり、国指定特別天然記念物の「大けやき」が敷地内にあります。

『日本一の大けやき』として東根市をあげての観光地となっており、「大けやき」のある学校として子どもたちも大切にしようという心で接し

平成十七年十一月二十二日東京はホテルニューオータニにおいて、日本PTA年次表彰式の席上、米沢市立第七中学校PTAは「日本PTA全国協議会長表彰」という栄えある表彰を賜りました。これもひとえに現PTA会員、並びに教職員の皆様の御協力のもとより、歴代PTA先輩諸氏の御協力や地域の皆様の御理解と御協力、更には関係諸機関の皆様御指導の賜物と厚く感謝申し上げます。表彰式には文部科学大臣、他御来賓多数の臨席の下、全国から大勢の優良PTAの代表者出席の中、かくも盛大に行われました。

この様な式典に出席させて頂いたという事は、私個人としても大変に勉強になりましたし、また光栄な事でございました。本校は、米沢市の東部に位置し、学区内には県内でも有数の八幡原工業団地を有し、地域産業としては農業が主体の農工共存地域の学校であります。全校生徒三百五十五名、会

ています。また、平成十三年に東根市が国際環境規格ISO14001の認証取得を受けて、本校も学校版ISOに積極的に取り組み、PTAも企画した東根市の環境ファミリーにも、多数取り組み環境保全に対する意識も高まりつつあります。

次に本校PTAは総務、文教、生活、保健体育の四つの

日本PTA全国協議会長表彰

伝統の継承と新たな試みを実践するPTAへ

東根市立東根小学校PTA会長 梶沼 淳

専門部と各学年PTAがそれぞれ自主的、組織的に活発な活動を行っております。

ここで具体的な取り組みを紹介したいと思います。

《伝統の継承》の取り組み

一つ目は、PTA新聞「けやきの窓」です。昭和二十五年より発刊しており、創刊から現在までの発刊紙が残されておりあります。また、平成十年

には、百四十七号までの復刻縮刷版を製本しました。

二つ目は、『大けやき少年教室』です。地区公民館の協力による、五学年児童とPTAを中心とした活動で、田植から稲刈り、冬には稲わらを使った縄なひと、その縄を使い大けやきに奉納する大横綱づくり、翌年の四月に市内を巡回する横綱パレード等の年

『ふれあい楽校』を実施しました。

この活動を通し子どもたちは、昔の遊びや稲わら細工等これまで体験したことのない貴重な経験をしたと思えます。そして今年二回目の実施を行い、今後もPTA主催で本校の継続した活動として実施していきたいと思えます。

二つ目は、『保護者用名札』

間を通した一連の活動を行っております。

《新たな試み》の取り組み

一つ目は、『ふれあい楽校』です。PTAでは、十周年単位として記念事業を実施しており、昨年度は創立百三十周年を迎え、新たな試みとして、児童、保護者、教師、地域住民による「体験型・創造型の各種屋台」の交流体験活動

の着用です。不審者対策の一環として『保護者用名札』を作成しました。授業参観や学校行事等で来校する際に着用することで、不審者対策の一つとしてアピールしています。また、通学路での立哨や市内の巡回パトロール等にも着用することでモラルの向上にもつながっていると思えます。最後に、子どもたちを取り

員数三百四十五名（内教職員二十五名）から構成されています。学校スローガンとして「元氣と勇氣の学び舎」を掲げております。本校は創立六年目というまだまだ新しい学校であります。平成十二年四月一日、米沢市上郷地区と万世一部地域との合併による新設校として開校致しました。それまでは上郷地区には、

今日に至っております。

また歴史の浅い本校PTAではありますが、活動の一端を御紹介いたします。

専門部として、育成部、環境整備部、広報部と三つの専門部が活動の中心となり、地域、学校、家庭と連携してさまざまな活動を行っております。まず育成部は、開校当時より行なっている全保護者に

なる立哨活動のみではなく、今年度は地区の防犯協会や、警察機関とも連携をし、夜間パトロール等を実施しました。

環境整備部は、名の通り校内の環境整備に係る活動をしております。本校生徒会では「ここあ活動」というボランティア活動を行っており、一昨年から本校に隣接する県有地を借用し、「ここあ

日本PTA全国協議会長表彰

子どものために

PTA活動の原点へ

米沢市立第七中学校PTA会長 安部 和彦

米沢市立上郷中学校が、また万世一部地域は米沢市立第五中学校に通学をしていました。が、上郷中学校の老朽化により、地域再編にともない新たに創立した学校であります。

PTAの創立もゼロからの出発でありまして、規約作成にしても旧上郷中学校や第五中学校の規約を土台に一旦から作成し、試行錯誤を繰り返し

よる、春、秋の登校時の交通指導とあいさつ運動や、危険箇所マップの作成等を行なっています。危険箇所マップは校区内の交通事故多発箇所や不審者等の情報があった所を明記し、そのマップを地区の行政機関や事業所、商店等に

一見してわかる様に告知しました。またあいさつ運動も単

の里」花壇を整備しています。ちなみに「ここあ」とは、心をこめて温かくの頭文字をとった生徒会スローガンであります。その花壇整備をPTA生徒会は勿論、地区の老人会や民生委員の方々にも協力を依頼し、共に作業する事によって、生徒、地域の方々、また我々PTAとより深い交流が出来たものと思えます。



巻く環境は、決して安全で安心して生活できるものではないと思えます。

私たちPTAの役割は、教師、保護者、地域と連携して子どもたちが元気に学び、遊べる環境づくりをして行くこと、だと思います。

これからも全員参画のPTA活動の実践を目指し、それぞれの絆をより強く結びつくよう努力していきたいと思えます。



広報部は、機関紙「七つの星」を年四回発行しています。約七百部発行し、会員には全戸配布、地区の方々には回覧による配布をしておりますが、いずれは地区の方々にも全戸配布をしたいと考えています。その他、私ども七中PTAは様々な活動をして参りましたが、失敗あり、反省する事ありの連続でありました。

PTA活動の基本は、子供達の幸せな成長を願う事だと思えます。今回の受賞を核に改めて我々が何をすべきか、もう一度考え直し、学校、家庭、地域と連携しながら、子供達の成長に少しでも役に立っていかねばと思えます。



栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られましたのでご紹介いたします。

(敬称省略)

優良PTA文部科学大臣賞

山形市立第八中学校PTA
新庄市立北辰小学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰

◇団体

東根市立東根小学校PTA
米沢市立第七中学校PTA

◇個人

中山 裕太郎 (前県P連副会長)
金澤 信明 (前県P連副会長)
熊坂 恵一 (前県P連副会長)
佐藤 恂一 (県P連事務局長)

東北PTA連絡協議会会長表彰

☆表彰状

◇個人

鏡 義宣 (前県P連理事: 上山市)
吉田 隆 (前県P連理事: 天童東村山)
濱田 淳 (前県P連理事: 米沢市)
伊藤 昌弘 (前県P連理事: 東置賜)
安部 義裕 (前県P連理事: 西置賜)
石川 原三 (前県P連理事: 鶴岡市)
北川 久 (前県P連理事: 東田川)
菅原 久継 (前県P連理事: 西田川)
阿部 求 (前県P連理事: 飽海)
加納 ひろ美 (前県P連理事: 最上)
佐藤 輝夫 (元県P副会長: 北村山)

◇団体

山辺町立山辺小学校PTA
上山市立南中学校PTA
戸沢村立角川小・中学校PTA
南陽市立赤湯小学校PTA
酒田市立鳥海中学校PTA
松山町立地見興屋小学校PTA

優良PTA県教育委員会表彰

山形市立第八中学校PTA
山形市立西小学校PTA
大江町立左沢小学校PTA
東根市立東根小学校PTA
新庄市立北辰小学校PTA
米沢市立第七中学校PTA
小国町立沖庭小学校PTA
酒田市立泉小学校PTA
八幡町立八幡小学校父母と教師の会

県PTA連合会会長表彰

☆感謝状 (県P役員退任者)

中山 裕太郎 (前県P連副会長: 酒田市)
金澤 信明 (前県P連副会長: 北村山)
熊坂 恵一 (前県P連副会長: 西村山)
鏡 義宣 (前県P連理事: 上山市)
吉田 隆 (前県P連理事: 天童東村山)
濱田 淳 (前県P連理事: 米沢市)
伊藤 昌弘 (前県P連理事: 東置賜)
安部 義裕 (前県P連理事: 西置賜)
石川 原三 (前県P連理事: 鶴岡市)
北川 久 (前県P連理事: 東田川)
菅原 久継 (前県P連理事: 西田川)
阿部 求 (前県P連理事: 飽海)
阿部 忠彦 (前県P連理事: 教職員代表)
森田 敏郎 (前県P連理事: 教職員代表)
加納 ひろ美 (前県P連理事: 最上)
木村 晃 (前県P連監事: 上山市)
椎名 和美 (前県P連監事: 教頭会)

☆表彰状 (郡・市Pより推薦)

鈴木 吉彦 (前山形市P連)
小野 和行 (前山形市P連)
佐々木 弘也 (前山形市P連)
伊藤 雅範 (前山形市P連)
平澤 一幸 (前山形市P連)
赤塚 伸幸 (前天童東村山P連)
高橋 弘子 (前天童東村山P連)
木村 圭一 (前西村山P連)
石山 忠之 (北村山P連)
佐藤 千津 (北村山P連)
伊藤 誠宏 (前最上地区P協)
横山 健一 (前最上地区P協)
金田 剛 (前東置賜P連)
菅原 久継 (前西田川P連)

2005たのしい子育て全国キャンペーン 第6回「家庭の風景～三行詩と写真コンクール」

〈小学生の部〉

☆日本PTA会長賞 (三行詩の部)
中 鉢 唯 (新庄小学校3年)

〈一般の部〉

☆文部科学大臣賞 (写真の部) 2年連続受賞
高橋 浩幸 (日新小学校教諭)

☆佳作 (三行詩の部)

佐藤 祐子 (羽黒町)

テーマ

『小・中・高連携のもと“いのちの教育”をつくる』

～学校・地域との連携と家庭の役割～

山形県教育委員会との合同教育懇談会報告

今年度で5回目を迎えた、県高等学校PTA連合会(高P連)・県PTA連合会(県P連)と、県教育委員会(県教委)との合同教育懇談会が、平成17年11月16日(水)ホテルキャッスルにて開催された。キーワードは『いのちの教育』。この大きなテーマのもと、県PTA母親委員長の佐藤静子氏より話題提供を頂き、意見交換が行なわれた。県教委からは本間章夫教育次長を初め9名、高P連より11名、県P連より20名、県PTA母親委員会より10名、合わせて50名の参加により有意義、且つ貴重な2時間を共有することができた。



と母親では大

■はじめに
懇談会に先立ち県P連の逸見良昭会長より「家庭教育の重要性が示され」高P連の松本敬会長からは「五教振のスタートの年として確実な成果を期待する」とのごあいさつをいただいた。そして、県教委の本間章夫教育次長より「生きる力の大切さや、いのちの教育とは」との視点から県としての方針を述べられた。

■性とは生きるための心
まず、初めに県PTA母親委員長の佐藤静子氏から「家庭における性と生教育」と題し、話題提供があった。女性という視点また、母親としての立場から鋭い論評を繰り広げられた。特に性を語る場合の意識に触れられ、「寝た子を上手に起こす」方法をもつと研修するべきという内容、敷居を高く保ち会話するべきとの考え方が示された。合わせて山形市P連母親委員会が実施した「性と生教育意識調査アンケート」の集計結果をもとに報告があった。やはり「性」に関して父親

きな意識の違いが露呈される結果になった。一方「生教育」という字になると不思議に理解されやすく感じるのには私だけであろうか。親であれば誰しもが命を大切にやるべき心をもち、生きる力が十分備わっているたくましい子どもを育てたいと感じているはずなのに。

■「いのちの教育」三つの柱

県教育庁総務課長補佐の長谷川耕二氏より「いのちの教育」の指針について、また、県教育庁スポーツ保健課長の高橋健二氏より「性といのちの学習」について取り組み事例を含めて概要説明があった。はじめに長谷川耕二氏より「いのちの教育」を推進するにあたり、基本的要素を三つの柱としてまとめられた。その一つ目は、自分を大切に思える気持ち(自尊心)を育てること。二つ目として「いのち」のつながりと多様性に気づかせること。三つ目として「いのちの尊さ」と人間としての「生き方」をしっかりと教えることであった。どれをとっても人として当たり前のことながらも、あえて考えなくてはならないところが、今の社会背景を物語っている。一つ目の「自尊心を育てる」ということは、愛されている実感により多く体験するというところに他ならない。特に幼

児期における体験が人生を大きく左右すると言っても過言ではない。自分を大切に思える気持ちと、人に優しく出来る気持ちには、どうも共通性があるような気がしてならない。二つ目の「いのちのつながりと多様性に気づかせる」であるが、生きるというよりは、周りに生かされているというように考えるべきではないだろうか。両親から大切な「いのち」を授かったはずなのに、自分だけのものと錯覚し粗末にしている傾向が目立つ。自分中心に周りを見渡すことも時には必要だが、違った角度から生かされている自分を客観視することも重要である。三つ目の「いのちの尊さと生き方」については、本当の生き方が身につくものと考え、また、昨今の実体験不足が様々な犯罪の引き金になっているケースも少なくない。

■おわりに

我々保護者や大人たちは「いのちの教育」という永遠の課題を厳粛に受け止め、家庭・学校・地域の連携をより強め、さらに推進していく必要性があると強く感じた。

文責・県PTA連合会副会長
高橋 欣也

安全互助会から TEL 023-631-0055

安全教育の向上と健全育成及び
会員の福祉の増進に寄与する
山形県PTA安全互助会

※ 日頃、本会の趣旨をご理解頂き、
多数校のご加入誠にありがとうございます。
皆様のご協力とご尽力に対しまして
感謝申し上げます。



☆ PTA安全互助会では、こんな補償をしています。

傷害事故の見舞金の給付手続きは、PTA安全互助会へ。
管理者賠償責任保険補償の給付手続きは、共栄火災海上保険株式会社へ。

児童・生徒

学校管理下外(登下校時の事故も含む)及びPTA主催・共催行事に参加中の傷害事故と日常生活での偶然な事故による賠償責任補償が該当します。

PTA会員

PTA主催・共催行事に参加中の傷害事故とPTA主催行事中の管理者賠償責任補償が該当します。

加入教職員

勤務外の傷害事故(通勤途上の事故も含む) 注 管理者賠償責任補償は該当しません。

☆ 加入状況

県内の学校数	477校	加入校	429校	加入率	89.94%
100%加入郡市町	山形、上山、天童・東村山、西村山、北村山、最上、西置賜、西田川				

☆ 安全互助会の主な事業

- ◎ 傷害見舞金の給付
 - ・ 最近、死亡事故がありました。事故には十分気をつけましょう。
- ◎ 管理者賠償責任保険補償(共栄火災海上保険株式会社と提携)
- ◎ 補助事業(活動補助費の助成)
 - ・ 山形県PTA連合会への助成
 - ・ 各地区PTA連合会(協議会)への助成
- ◎ 研修大会への補助
 - ・ 山形県PTA連合会研修大会への補助
 - ・ 東北ブロック研究大会県開催地区への補助



☆ Q & A

Q 管理下内でも賠償責任補償給付が受けられる場合があると聞きましたが本当でしょうか？

A 児童・生徒の日常生活での偶然な事故は、賠償責任補償対象になります。但し、自分の使用・管理する物の破損事故及び故意的・善悪の判断が出来る場合は、賠償責任補償の対象外です。

Q PTA行事参加後、帰路の途中私用の買い物のためスーパーに寄り道をし、そこで転倒して怪我をしましたが傷害見舞金の対象になりますか？

A 往復途中とは、PTA行事活動の会場と自宅との間の「通常経路」をさします。「通常経路」とは、集合解散場所と、会員の住居との間を直行することをいいます。寄り道をして通常経路を離脱したので、「通常経路」に当たりません。従って質問の場合は、傷害見舞金対象になりません。

日中友好少年少女の翼に参加して

僕の世界が広がった旅

酒田市立第六中学校

三年 阿部 剛也

僕にとって今回の日中友好「少年少女の翼」の参加は、とても良い体験となり、有意義な旅でした。五泊六日の旅でしたが、中国の代表的な場所を見学し、雑技団を観賞したり、北京の中学生との交流等、心に深く残る体験がたくさんできました。

また、初めて会う全国の中学生と一緒に旅をする貴重な体験もできました。

中国の観光地はどこも興味深い所ばかりでしたが、中でも故宮と、万里の長城にはとても驚かされました。中国の歴史を感じ、これを作った人達の偉大さを感じました。実際に僕がそこに立って見るのができたことを本当にうれしく思いました。

また、本場中国での水墨画や書道の体験も、楽しい事でした。

お金の価値の違いや、物価の違いは、学習していましたが、

が、日本とかなり違うので、少しとまどいを感じました。

北京師範大学第二附属中学の人達との交流では、文化や言葉が違っても仲良く、心のふれあいができた事は、とても大きな体験でした。北京の中学生は英語力がかなりありました。それには驚きました。僕も、もっと英語を勉強しなければいけないと思いました。英語力があれば、北京の中学生達のように、もっと積極的に行動ができ、もっと深く交流することができたと思います。

日本全国の中学生や中国の中学生との新しい出会いは、僕に、勇気と自信を与えてくれたすばらしい体験となりました。この経験を忘れずに、何事にも、勇気をもって積極的に進んで行きたいと思えます。この旅に参加できて、本当に良かったと思います。



多くの出会いを経て

酒田市立第三中学校

三年 長坂 菜津

私が日中友好「少年少女の翼」に参加して強く感じた事は「世界の絆」です。

初日は、全国各地から参加する中学生達とすぐに友達になれるかとても不安でした。しかし参加した皆は明るく良い人ばかりで、すぐ親しむことができました。中国の学生と交流した時も、お互いの言葉は通じないけれど、英語や身ぶり手ぶりで打ち解けることができて安心しました。中国の学生は英語がとても上手で、ついていくのがやっとでした。

中国の料理は日本とは大分違って、油が使われているものが多く、六日間食べ続けるのは大変でしたが、日本では味わえないたくさんの種類の食事を食べることができ、良い体験になりました。北京は華やかな街で、ビルやホテルマンション、大きな道路があったのですが、万里の長城

に行った時に郊外に出たら、質素で貧しそうな家が所々にあり、その差に驚きました。また、中国はとても空気が汚れていて、マスクや市販の綺麗な水がなければ過すのは大変だったと思います。

私達が帰って少ししてから、北京では「反日デモ」が盛んに行われるようになり、とてもシヨックを受けました。数日前まで滞在していた場所でも、また触れ合った人々はとても優しく話してくれたのに、やはりまた日本に良い感情を持っていない人がいるのです。歴史がそのような状態を作ったのなら、私達は未来を変えていかなければいけないと思います。そのためにもこの貴重な体験を生かし、平和な世界関係を築けたら良いと思います。そして、国同士が悪い関係にあったとしても、交流して親しんだ私達日中の学生は深い絆で結ばれていると信じています。

この行事に関わった日本PTAの皆さん、中国の皆さん、そして全国各地にいる皆、ありがとうございました。

かかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを

＝第58回山形PTA研修大会西村山大会＝



西村山大会実行委員長
伊野 昭 儀

「いのち輝く子どもたち」を大会主題に掲げ、本年、来る十月十四日(土)、寒河江市を会場に、第五十八回山形県PTA研修大会西村山大会が開催されます。同大会に向けて、当西村山郡市PTAでは、昨年来から大会準備実行委員会が組織され、西村山地区一市四町のPTA連合会が一丸となって、準備を進めております。

その中で、平成十七年から二十七年までの、第五次山形県教育振興計画の中で、「いのち」そして「まなび」と「かかわり」の「スローガン」を題材に、「いのちの教育」を通して、「家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたち」を大会主題に掲げ、参加される県内各地で活躍されている皆さんと研修し、語り合いたいと考えております。自分の「いのち」を大切に、他の「いのち」にも思いをはせ、人や社会の役に立ち、自然に学び、その恵みに感謝する。これが、いのち輝く人間の姿だと言われています。又、自分を大切に思える気持ち(自尊心)を育てる、「いのち」のつながりと多様性に気づかせる、「いのちの尊さ」と人間としての「生き方」をしつかりと教える。これが、「いのちの教育」の三つの柱とも言われています。

この「いのち」を育む、家庭・学校・地域のかかわりと役割を、より明確化して、更には人とのつながりの中で社会力を高め、生きる喜びと輝きを持てる、環境づくりをPTAとしては強く求められています。

家庭は教育の原点であり、すべての教育の出発点であるとして、保護者として家庭人として、教育の原点に立ちかえり、再確認したいものです。又、昨今、不審者問題が多発し子どもたちの安全確保が急務になって来ております。本大会でも分科会に組み入れておりますので、山形県のどまんなか、花とせせらぎとフルーツの町、寒河江で皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

平成17年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役職	氏名	所属地区PTA	所属PTA	役職	氏名	所属地区PTA	所属PTA
会長	逸見 良昭	山形市PTA連合会	山形一中	理事	牧 秀樹	酒田市PTA連合会	港南小
副会長	遠藤 正明	山形市PTA連合会	山寺小中	"	佐藤 徳康	飽海郡PTA連合会	地見興屋小
"	大類 誠一	北村山PTA連合会	楯岡中	"	佐竹 恵一	県小学校教職員代表	山形八小
"	伊野 昭儀	西村山PTA連合会	陵南中	"	佐藤 嘉一	県中学校教職員代表	米沢一中
"	高橋 欣也	最上地区PTA協議会	新庄小	"	佐藤 静子	山形市PTA連合会	山形五中
理事	三浦 豊	上山市PTA連合会	上山南中	"	深瀬 匡巳	北村山PTA連合会	楯岡中
"	武田 真也	天童・東村山地区PTA連合会	大寺小	監事	高橋 和典	山形市PTA連合会	山大附属小
"	本田 祐次	米沢市PTA連合会	興譲小	"	鈴木 義明	天童・東村山地区PTA連合会	長崎小
"	山口 良一	東置賜地区PTA連合会	宮内中	"	大沼 篤	山形市PTA連合会	山形東小
"	山口 良浩	西置賜地区PTA連絡協議会	荒砥小	事務局長	佐藤 恂一	山形県PTA連合会	
"	阿部喜美男	鶴岡市PTA連合会	鶴岡五中	事務局員	高橋 邦孝	"	
"	石川 安彦	東田川郡PTA連合会	藤島小	"	佐藤 洋子	"	
"	野尻 善喜	西田川郡PTA連合会	福栄小	"	熊谷 慶子	"	



来年度の主な行事予定

- ◆日本PTA広報紙コンクール 応募締切 4月14日(金)まで
- ◆各・郡市より諸報告提出締切 6月1日(木)まで
- ◆第一回県PTA理事会議 6月15日(木)10時30分～
- ◆平成十八年度県PTA総会 6月23日(金)13時30分～
- ◆日P全国研究大会宮崎大会 8月26日(土)～27日(日)
- ◆東北研究大会郡山大会 9月9日(土)～10日(日)
- ◆第五十八回県PTA研修大会 西村山大会
- ◆県教委と高校P連との合同教育懇談会 11月15日(水)予定

あしがき

自他のかけがえのないいのちを大切に、「いのちの教育」を家庭、学校、地域が一体となって作り上げることが求められており、PTAにも具体的実践活動が期待されております。(J・T)